

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

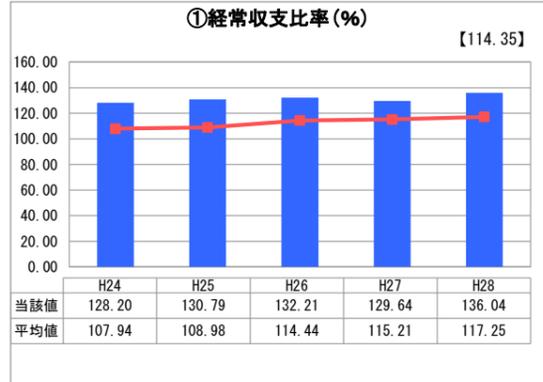
福島県 いわき市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	66.64	102.86	3,661	

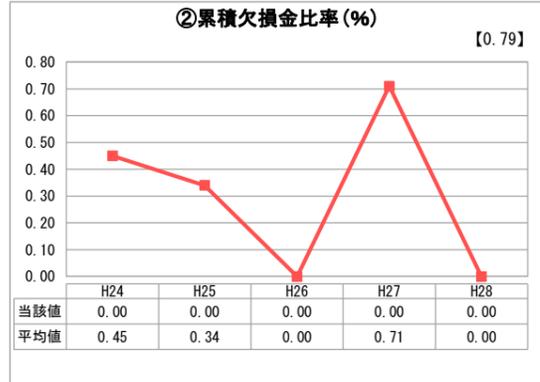
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
329,938	1,232.02	267.80
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
337,332	466.03	723.84

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成28年度全国平均

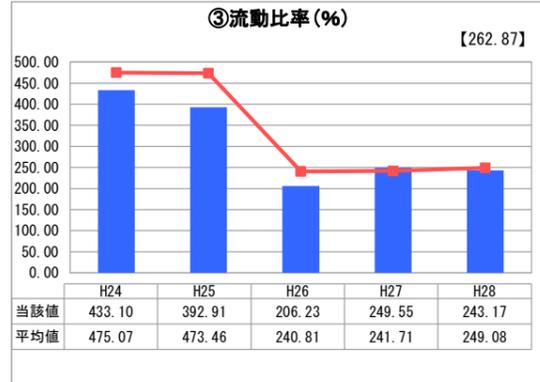
## 1. 経営の健全性・効率性



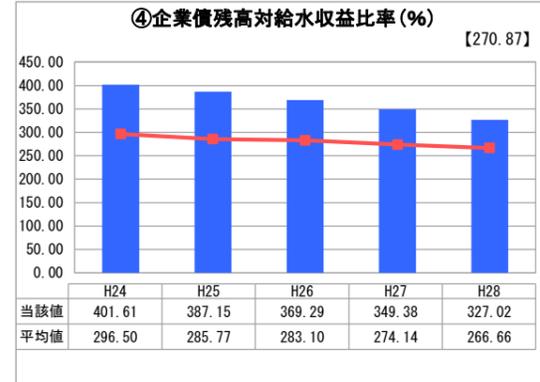
「経常損益」



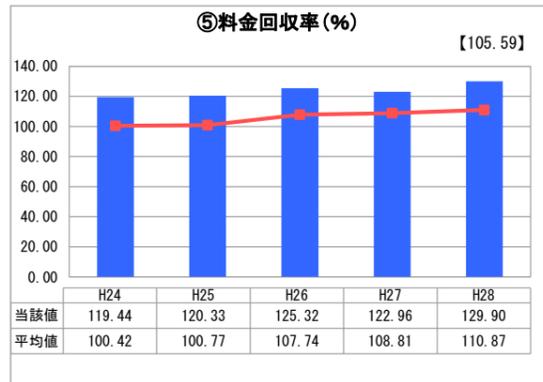
「累積欠損」



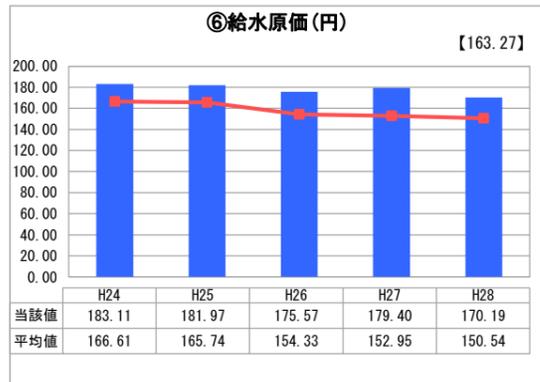
「支払能力」



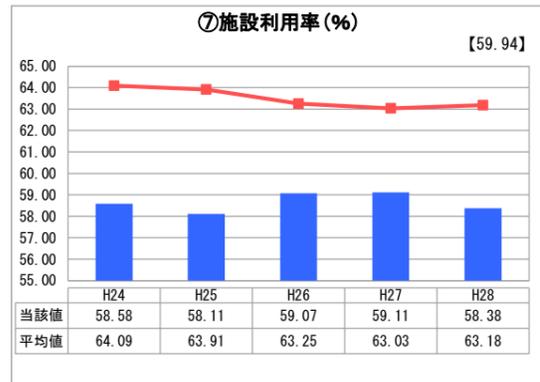
「債務残高」



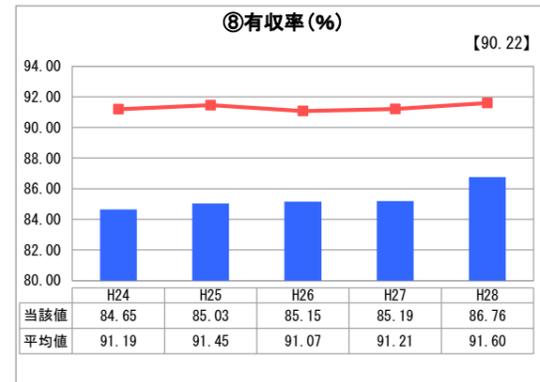
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

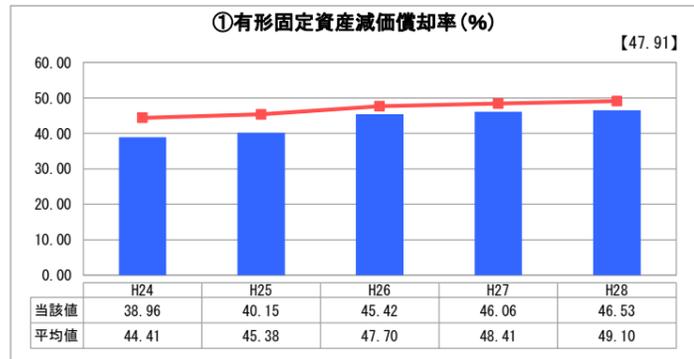


「施設の効率性」

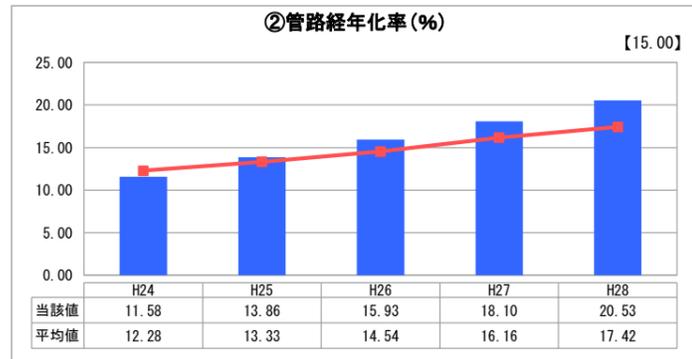


「供給した配水量の効率性」

## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」、「⑤料金回収率」はともに100%以上で類似団体平均を上回っています。企業債の縮減に努めてきたことによる支払利息の減少などが主な要因として考えられ、収益性は良好です。

「③流動比率」は、100%を上回っており、財務状況は良好です。

「④企業債償還残高対給水収益比率」は、類似団体平均値を上回っていますが、企業債残高の縮減に努めてきた結果、年々減少してきています。

「⑥給水原価」については、類似団体平均値を上回っていますが、広域で起伏に富む地勢、中小河川への依存により施設を多く抱えているなどの要因によって、より多くの給水コストがかかっているためと考えられます。

「⑦施設利用率」は類似団体平均値を下回っていることから、施設のダウンサイジングなどの施設の効率性を高める対策を進めていく必要があります。

また、「⑧有収率」も、類似団体平均値を下回っていることから、漏水防止対策事業や漏水修繕等の対策を強化し改善していく必要があります。

### 2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は、類似団体平均値を下回っており良好です。

「③管路更新率」は、類似団体平均値を上回りましたが、「②管路経年化率」は、類似団体平均値を上回っていることから、更新率をより高めていく必要があります。

## 全体総括

経営は概ね健全ですが、施設の効率性は類似団体に比べ低く、管路の老朽化も進んでいます。

今後、人口減少に伴う給水収益の減少や高度経済成長期に整備してきた水道施設の更新需要が増大することが見込まれることから、経営の健全度、施設の効率性及び老朽化の状況は悪化していくことが見込まれます。

このような中で、持続可能な事業経営を行っていくために、平成29年度からスタートした新・いわき市水道事業経営プランに基づき、老朽管の更新や施設の耐震化などの主要事業を着実に実施するとともに、経営の効率化などによる財政基盤の確立に努めることで経営の健全度や施設の効率性、管路の更新率を高め、本市水道事業を未来に引き継いでいきます。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。